北海道建築学会北海道支部研究発表会特別企画

「夕張再生まちづくり支援への建築専門家の役割」の講演からみえてきたもの

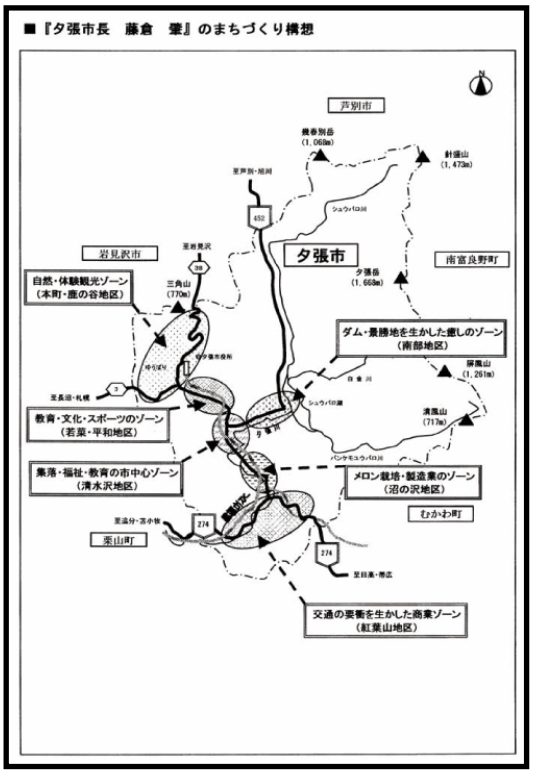
谷口尚弘（北海道工業大学・准教授）
岡本浩一（北海学園大学・准教授）
瀬戸口剛（北海道大学・准教授）

●はじめに

平成 21 年 7 月 4 日（土）に建築学会北海支部研究発表会の特別企画として『夕張再生まちづくりへの建築家の役割』と題した講演会およびパネルディスカッションが開催されました。夕張の市長藤倉肇氏も来演され、夕張のビジョンを語っていただきました。また、パネラーには、すでに夕張と関わり支援されている角幸博先生（北海道大学）、吉岡宏高先生（札幌国際大学・NPO 炭鉱(ヤマ)の記憶推進事業団）、羽山広文先生（北海道大学）、松村博文氏（北海道立北方建築総合研究所）から様々な知恵が語られ、これからの夕張の再生について技術的・体系的・横断的に支援する可能性について議論していただきました。講演者みなさんの講演内容と、主なスライドを紹介します。

●夕張市の再生まちづくりの状況（藤倉肇市長）

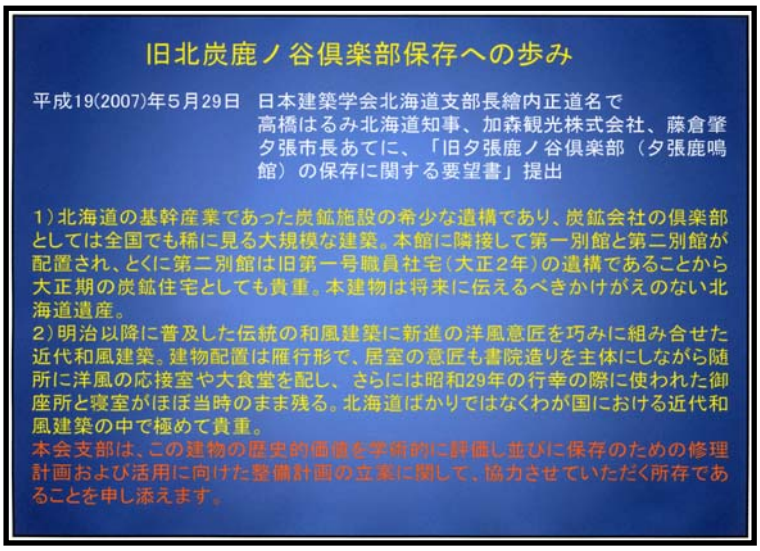
藤倉市長の講演を、大きくまとめますと「夕張の歴史」「夕張の現状」「今後の方向性」でありました。炭鉱で発達してきたまちが観光に転換し、箱物（建築物）に依存するまちづくりへと転換してきましたが、経験が浅い（プロではない）市長が在籍するこれからは、市民一人ひとりが立ち上がり、「自立するまち」として成長していくであろう、と語られておりました。また、国によってつくられたまちが自立を目指し、①住居づくり、②地の利を生かしたまちづくり、のビジョンが掲げられました。とりわけ②については、右図にみられるように６つのゾーンから構成され、それに市民が自然に集まってくるようにする方法を今後は検討したいとのことでした。そのゾーンの活用方針などが市民から提案されてくるようになると、再生まちづくりとしてよりステップアップしていくことでしょう。



●鹿ノ谷倶楽部の保存再生に向けての支援（角幸博先生）

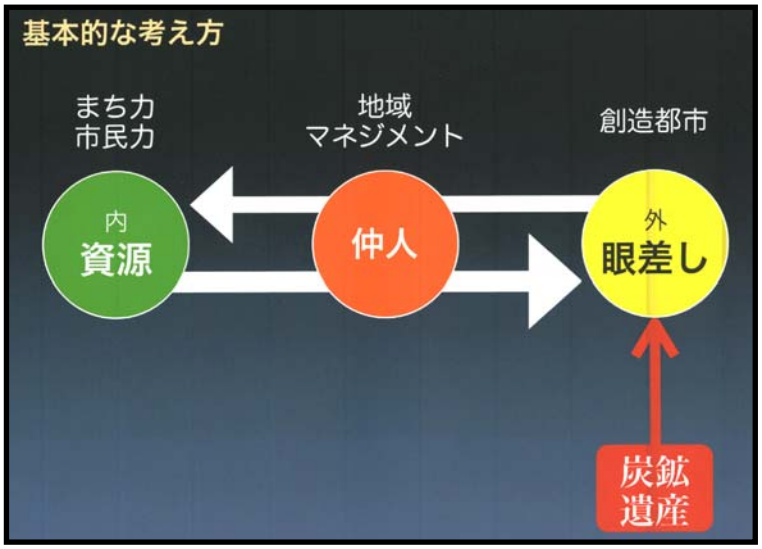
角先生からは、夕張の文化を次世代へつなぐ貴重な建築物「鹿ノ谷倶楽部」の保存再生活動についてのお話がありました。この建物は、日本のなかでも貴重な「近代和風建築」

であることが述べられ、「建物の歴史」「建物の現状」「改修・保存再生のための活動内容」が大きな話題でありました。活動内容においては、建築学会支部歴史意匠委員会でボランティアとして活動してきたことが最初は市民に受け入れられなく、月１～２回程市民と議論を繰り返した結果、市民のみの検討委員会が結成され、保存再生へ動き出した、とのことでした。これは、先の藤倉市長の「自立のまちづくり」が実は着々と生成されており、建築学会支部歴史意匠委員会がそれに支援しているものといえるでしょう。



●炭鉱遺産の再生支援（吉岡宏高先生）

吉岡先生からは、炭鉱が生活を支えてきた、もしくは今でも支えていること、昔の夕張はコンパクトシティそのものであったことのお話がありました。さらに、夕張市を含む空知支庁の政策に関わる市民活動についてのお話がありました。最初の提案は支庁からであったのが、市民が立ち上がり、それを支庁等が継続的に支援している形へ展開しているとのことでした。そして今後はネットワークづくりで「まち力（資源）」－「地域マネジメント（仲人）」－「創造都市（目指し）」が必要で（右スライド）、特に「仲人」の人材育成の重要性を指摘されておりました。また、その地域に入るときの入口は建物＝建築物であり、建築とまちづくりの関係性を示しながら進めていくことも課題としてあげられました。



●夕張老健施設「希望の杜」での建築環境技術支援（羽山広文先生）

羽山先生からは、夕張労健施設「希望の杜」の建物改修についてハード面とソフト面の両面からお話がありました。建物の老朽化とくに熱

の損失により施設の運営費が赤字になっており，窓と床の改修を行うだけでも約 32%減（約 400 万円）が節約できることが示されました。実際には，窓の改修（シングルガラスからプラストサッシを施工）が実施されたことの報告があり（右スライド），それによりコミュニティも良くなったとのことでした。熱環境による冬の暮らしを考えることの重要性が示唆されたものと思われます。

●都市コンパクト化へ向けた公営住宅の再生支援（松村博文氏）

松村氏からは、さまざまなデータを基にして，公営住宅を中心とした夕張市のコンパクト化についてお話がありました。夕張市は公営住宅率が高く，平成 30 年には空き家ストックが 2000 戸になること，生活の利便性が低下していることが述べられ，行政負担が増大となることが懸念されるとのことです。今後の推進事業の提案や公営住宅の再編案が提案されたなかで，夕張市長が主要テーマとして掲げている「住居づくり」の方法論が示され，今後の政策策定において参考になったものと思われます。また，地元業者が関わることができる、木造の公営住宅が建設できる行政的支援も必要と訴え、住居づくりと地元産業育成という地域マネジメントの方法も提案されました。

●まとめ

今回、開催した特別企画は聴講者からも非常に好評であり、企画としては成功裡に終えました。ご多忙の中、藤倉市長、各先生方には、各専門分野において現在夕張市で支援している内容を講演していただきましたが、「ひとづくり」「ネットワークづくり」「マネジメントづくり」など専門以外のことも支援されていたかと思われます。また、そのことがこの場で語り合えたことにより、新たな支援方法と横断的な活動支援に向けたアプローチができたのではないでしょうか。

夕張は次へのステップアップの可能性を秘め、これからは新たに芽生えてきた夕張の灯を再び消えないように今後もますます支援されていくことでしょう。